



「よし始める美琴」

「えへ♥モニターの前の皆様あ…♡見えてますか?」

「こちらはあ…強化警察の警官でえ…私の元相棒のおレントセンバイですw」

「カルテルに捕まっちゃった美琴を助けるために駆けつけてくれたんですけど…」



「強化男性様に一般男性が敵う訳ないのも理解らずに…ブザマに敗北して今美琴に管理されてます」

「これからあ…強化男性様に…雑魚オスが逆らうとどという痛い目に合うのかを…」

「強化剤カルテル共用チンポコ隊員美琴があ…皆様に紹介したいと思いまゝす☆」

「エへ〜」

『レントセンパイは今あゝ  
ご主人様にご命令されて』

『1か月間毎日寸止めして  
お射精おあずけさせてます♡』

『強化剤ガス嗅がせながら  
寸止めしまくるとお…』

『射精への執着だけが  
どんどん強化されちゃう  
らしくて…ちよっと  
可哀想なんです♡  
でもお…』

トロキ

『強化男性様に逆らった  
バカな粗チンには  
徹底的に罰を与えろって  
命令されてるのでえ…♡』

『こうやってえ…毎日  
弱体化ローション使って…  
雑魚ちんぽもくと弱体化  
させていきます♡』

『皮被り包茎の中にも  
弱体化剤たあぷり  
含ませて♡』

『二度と女の子と  
セックスできない  
不能ちんぽに  
仕上げていきます♡』

『センパイはこんなこと  
されてるクセに  
お射精しようと  
してくるのでえ…』

トロキ

クダラ

クダラ





『お射精出来ない状態でも  
雑魚チン虐めるのは  
絶対止めてあげません♡』



『尿道潰して  
精液出すのを強制的に  
止めさせます♡』



『ほら雑魚っ♡  
射精してみろっ♡』

『おりゃ♡おりゃ♡  
死ねっ♡死ねっ♡』



『えへへ♡こっやって煽るとお...♡  
頭では強化剤で射精したいのに  
おちんぼは射精出来ない  
お預けモードに入っちゃいます♡』

『おりゃ♡  
死ねゴミちんぼ♡  
参ったかっ(笑)』

「美琴ちゃん  
雑魚男の扱い上手いねw」

「日々の訓練の賜物だなw」

「はははw今日も良く  
出来たな美琴」



『あーん♡  
やっどギタあ♡  
雑魚オスの  
ゴミちゃんぽ管理が  
上手く出来たらあ♡』



『うあつ♡  
デッか♡』

『じゃぶれ』

ドグリン



「射精したくて  
たまらない  
お前のセンパイが  
真下で見てるぞw」



『ぶははw  
すっげえバキュームw  
新人の割には  
使えそうだなw』

『ご褒美として  
強化男性の主人様のお♡  
バッキバキ強化チンポを  
舐め回す権利を  
いただけるんです♡』

かぽ

かぽ

かぽ

かぽ

かぽ



「夢中になつてじゃぶるな  
見てる奴らに解説しろ」

『ふあつふあいい♡  
しゅびばしえん♡  
皆様あ♡ごめんなひゃい♡』

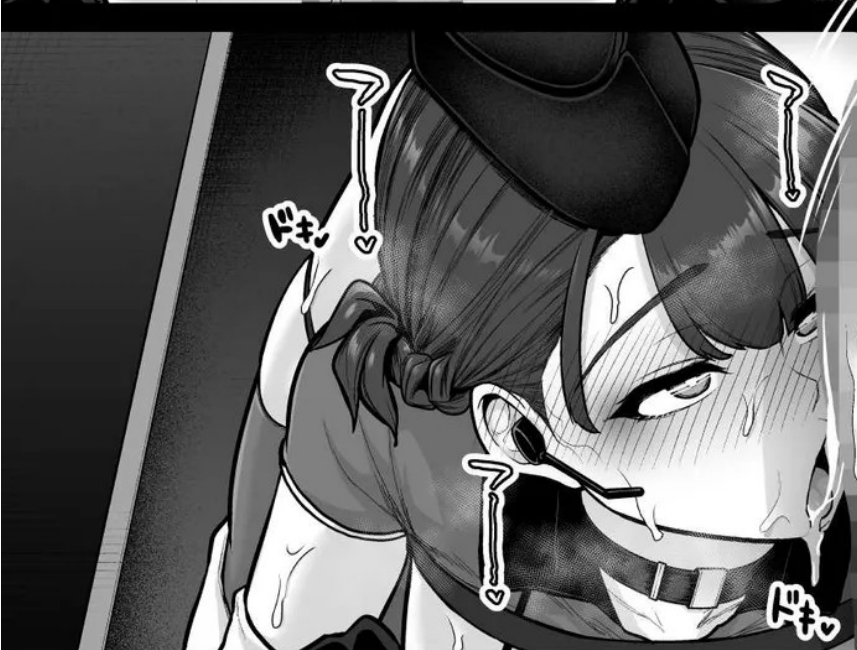
『これからあ♡  
弱小ゴミちゃんぽとお♡  
強化男性様の  
イケメンおちゃんぽ様との  
待遇の違いをお♡  
お見せしちやいまっひゅ♡』



「うやうやと雌としてえ  
最大限の敬意とお♡  
忠誠心をお♡示しましゅ♡」



「弱小チンポと違って  
女の子を幸せにできる  
強化男性しゃまの  
つよつよおちゃんぽにはあ♡」



ポロ

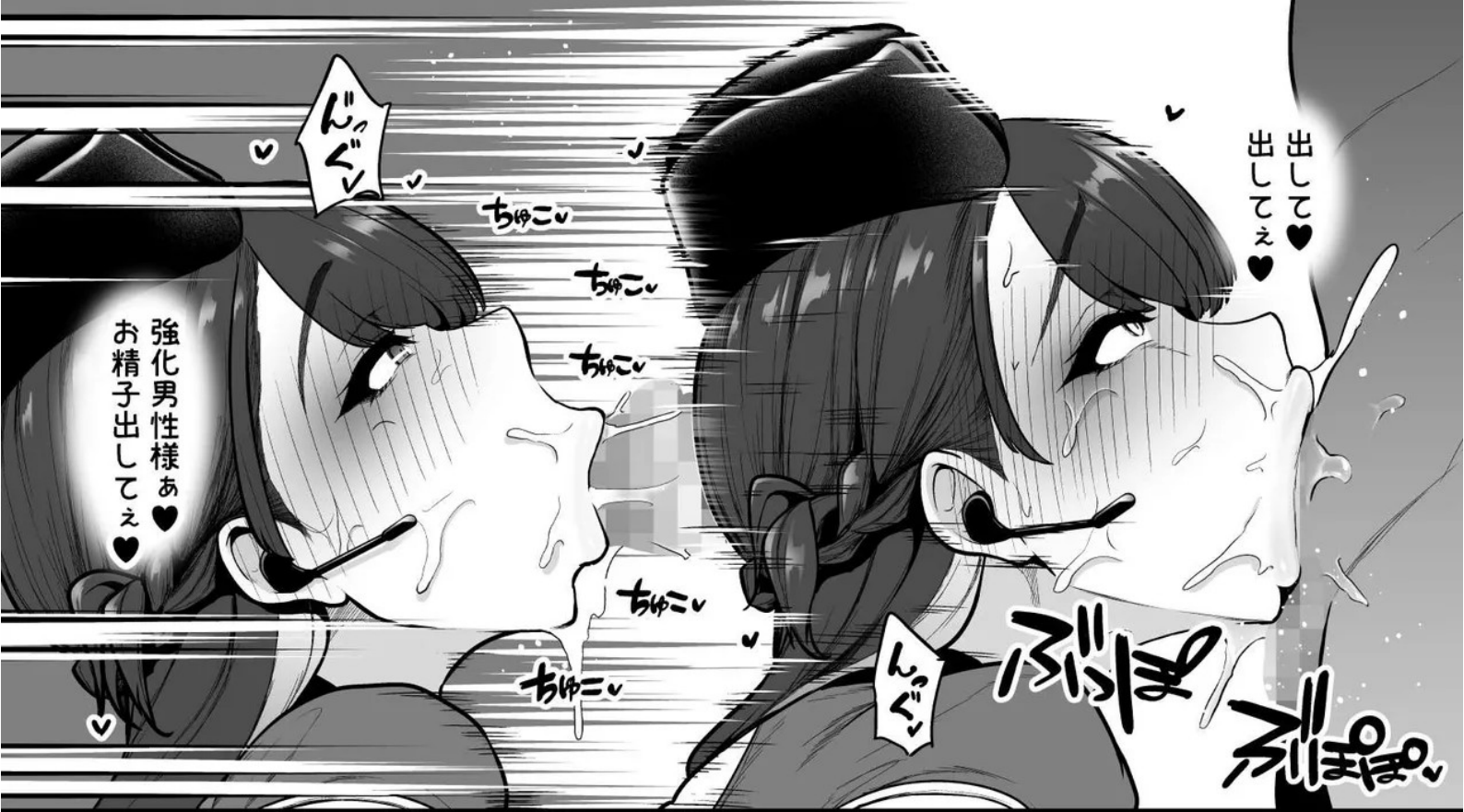
「おいつ何勝手に放してんだ？」  
「うっ…めんなひやいら♡おっ…  
おちゃんぽ様あ…おおきすぎでえ♡  
お口に入りきらなくてえ♡」  
「はははW言い訳するな」



「チンポコ隊員だろ？  
責任もつてさっさと  
射精させろW」  
「ふぁいっ♡  
しゅびばせん♡」

「よっしっ♡いぞ  
もっすぐ出すぞ」  
出す?!  
美琴のフェラで?!  
嬉しい♡♡♡

トロオオ











2分後  
射精終了

『はははw  
いい加減全部子宮で  
飲めるようになれ美琴w』



『出せ♡出せ♡出せ♡出せ♡』



『1か月ぶりの  
雑魚サリメン  
ビュルビュルタイム♡』

『ほらセンパイ♡  
射精許可して下さった  
強化男性様に  
感謝ですよあ♡』



『伸ひてねえで  
最後の仕上げだ』

『はっ♡♡♡』



「はっ♡」

『負け組射精♡』

『えへへ♡上手上手♡  
雑魚男性らしく  
惨めなびくびくお漏らし射精♡  
偉いですよあゝセンパイ♡』



『センパイもおちんぽ  
おっきかったら  
女の子のおまんこで  
お射精出来たのに...』

『可哀想♡』

『このまま美琴が一生  
へんな手コキじゃないと  
イケないへなちよこ  
ちんちんにして  
あげますからね♡』

『ブハハハ  
良くやったな美琴w  
それじゃあ更にご褒美だ』

